

勤務する大阪成蹊大で、吉本新喜劇の島田珠代さんをゲストに迎えるトークライブを開催しています。そこでは珠代さんの持ちギャグ「パンティテクス」の歌とダンスを披露する機会があります。6月には登場と同時に披露し、会場は一気に笑いの渦に包まれました。8月も同じように大学のチャダンス部がバックダンサーを務める予定でしたが大会と日程が重なり、急きょ、別のダンサーを探すことになりました。

「福岡先生、バックダンサーと全力で生きる」



挑戦した経験が自信になる

最初は一重にお断りするつもりでした。しかし、50歳を目前にした今、ふと「半世紀生きてきた集大成として、全力で挑戦してみよう」と思い、そこから猛練習を開始。2分を超える振り付けを覚えるだけでも一苦労。動きは理解していても、複雑な動きとスピードに身体がついていけない。ようやく踊れるようになったと思ったら、今度は最後まで踊り切る体力が…。

それでも仕事は待つてくれず、通常業務に加え、トークライブの準備も進めなければなりません。その合間を縫って、ダンスの練習時間を捻出する毎日。朝起きたらすぐに練習、通勤中は歩きながら手の動きを確認。電車内でダンス動画を見返し、お風呂で頭の中で振り付けを繰り返す。寝る前にも最後の確認。気が付けば生活のあらゆる時間がダンスの練習になっていました。

そして迎えた本番。なくさんのお客さんから温かい拍手をいただき、「やり切った」という充実感に包まれました。

これまで若人、小学校の教師、大学教員とさまざまな経験をしてきましたが、「50歳手前で島田珠代さんのバックダンサーを務める」という出来事が、人生で一番努力した経験だったかもしれせん。

不思議だったのは、その間も仕事の質は落ちなかったことです。むしろ毎日が充実していた分、気持ちが前向きになり、仕事も普段以上ににはかどりました。そして、迎えたトークライブ自体も多くの方に喜んでいただき大成功でした。

ダンスを踊りながら改めて感じたのは、島田珠代さんのすごさです。激しいダンスで会場を盛り上げ、そのまま新喜劇さながらの笑いを届け、さらにトークライブでも観客を魅了する。その舞台裏には人知れない努力が積み重ねられていることに気付きました。

挑戦を終えた今、不思議と自信が湧いています。年齢は挑戦しない理由にはなりません。最初から「無理」「できない」と決めつけるのではなく、まずは一歩踏み出してみる。全力で挑戦した経験は、結果以上に自分自身を成長させてくれるのだと実感しました。

